

令和7年4月15日

1 研究テーマ

小規模校から発信する、「そろえる教育」から、「伸ばす教育」への質的転換

2 テーマ設定の理由

令和3年1月に示された中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』にある「中山間地、小規模校での自前主義からの脱却」を具現化するために、地理的な制約や小規模校であるがゆえになしえなかった学びを、ICTを効果的に活用し実現していきたいと考える。これまで、小規模校において弱みであった極少人数での指導体制下において、オンラインで他校と接続する等、ICT技術の飛躍的な進歩によって「協働的な学び」の実現が可能になった。また、これまで小規模校での実践によってこどもが身に付けてきている「一人学び」を、こどもの「自律的な学び」という視点でとらえ直せば、「個別最適な学び」の実現へとつなげることができると考える。このように、これまで弱みのはずだった学びを小規模校だからできる強みに変えることにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していくきっかけになると考える。

3つの柱の資質・能力を育成する中で、最終的に目指す「持続可能な社会の創り手」の育成は、こどもの自律的な学びの上に成り立つものであると考える。そこで、こどもが「持続可能な社会の創り手」となるために必要な新たな価値の創造に欠かせない要素となるこどもの主体性を伸ばすことに重きをおいて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「そろえる教育」から、「伸ばす教育」への質的転換を、小規模校から発信していくことを目指していきたいと考える。

※今年度、より幅広い実践に取り組めるようにするため、副題をなくしました。